

## 香川県保険医協会・歯科技工士会 コラボセミナーのご案内

## インプラント義歯上部構造を成功に導くコツ

松香芳三先生（徳島大学大学院医歯薬学研究部 顎機能咬合再建学分野 教授）



## 略歴

1988年 岡山大学歯学部卒業  
 1992年 岡山大学大学院終了  
 （博士（歯学））  
 1992年 岡山大学助手  
 1996-1998年 UCLAレジデント  
 1997年 岡山大学講師  
 1999年 UCLA研究員  
 2002年 UCLA助教授  
 2005年 岡山大学助教授・  
 准教授  
 2012年 徳島大学教授

歯科疾患実態調査では、国民1人あたりの欠損歯数が年々減少していることが報告されていますが、超高齢社会を迎えた日本では高齢者の増加に伴い、歯の欠損を有する国民は急増しています。多数歯欠損に対しては可撤性義歯を装着することが、これまでは一般的でしたが、1965年にブローネマルクがチタンインプラントを歯科治療に応用してから、インプラント義歯が選択肢の一つとして挙げられるようになりました。インプラント義歯の長所は装着感が天然歯のように自然であることや固定が得られた場合、機能期間が長いことなどです。一方、短所は埋入手術を伴うため、手術介入が可能な患者さんのみに対応が可能であることや治療が高額であることなどです。

「詳しい抄録は裏面をご覧ください」

## 顎口腔系に調和する精度の高いインプラント上部構造を目指して

嶋居浩平先生（徳島大学病院医療技術部歯科医療技術部門技工室）



## 略歴

2010年3月 広島大学歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻 卒業  
 2010年4月 徳島大学病院診療支援部歯科医療技術部門技工室入職  
 2013年4月 徳島県歯科技工士会理事 就任  
 2016年9月 日本歯科技工学会専門歯科技工士 認定  
 2017年9月 日本口腔顎顔面技工学会理事 就任

1965年にBrånemark教授が世界で初めてチタン製インプラントを開発、臨床応用してから、早や60年が経過しようとしている。徳島大学病院においても、1990年代初頭よりインプラント治療を導入し、多くのインプラント上部構造を患者に提供してきた。その間、さまざまな研究や開発が進み、より安全で患者満足度の高い治療が行われるようになってきている。

歯科技工士の立場からも、新たな材料やデジタル化の導入により、日々アップデートを行いながら歯科技工に勤んでいるが、我々が目指すインプラント上部構造のコンセプトは大きく変化していないのではないかと考える。

「詳しい抄録は裏面をご覧ください」

## 記

- 日時 2022年10月16日（日） 10:00~15:00
  - 会場 ホテルマリンプレスさぬき（高松市福岡町2-3-4 無料駐車場あり）
  - 参加費 技工士会員 無料 非会員 10,000円 事前にお振込み下さい
- 定員 60名（先着順） 会場 20名 WEB 40名

WEBでご参加の場合zoomウェビナーに事前登録ください。

※注 その際、お名前のあとに(技)を付けてください。

<https://onl.bz/xbHR6EC>

スマホでQRコードからもご登録できます



## インプラント義歯上部構造を成功に導くコツ

松香芳三 徳島大学大学院医歯薬学研究部 顎機能咬合再建学分野

歯科疾患実態調査では、国民1人あたりの欠損歯数が年々減少していることが報告されていますが、超高齢社会を迎えた日本では高齢者の増加に伴い、歯の欠損を有する国民は急増しています。多数歯欠損に対しては可撤性義歯を装着することが、これまでは一般的でしたが、1965年にブローネマルクがチタンインプラントを歯科治療に応用してから、インプラント義歯が選択肢の一つとして挙げられるようになりました。インプラント義歯の長所は装着感が天然歯のように自然であることや固定が得られた場合、機能期間が長いことなどです。一方、短所は埋入手術を伴うため、手術介入が可能な患者さんのみに対応が可能であることや治療が高額であることなどです。

インプラント義歯が長期間機能する上での大きなリスク要因としては、インプラント周囲炎、上部構造（ポーセレン）の破折などが挙げられます。インプラント周囲炎を予防するためには、上部構造装着後のメンテナンス、禁煙指導、全身疾患の予防、上部構造に対する過負荷の軽減（咬合調整、パラファンクションの軽減、アプライアンス装着）などが考えられます。また、上部構造の破折を予防するためには、緻密な技工作業、過負荷の軽減などが考えられます。技工作業に関しましては鴨居先生の発表を参考にして頂ければ幸いです。

以上のように今回の講演におきましては、インプラント義歯上部構造を長期間機能させるための方略に関して話を進めたいと希望しております。また、サージカルガイドを用いたインプラント体埋入に関しても触れたいと考えております。

今回の講演が先生方の診療に役立つことを希望しております。

## 顎口腔系に調和する精度の高いインプラント上部構造を目指して

鴨居浩平 徳島大学病院医療技術部歯科医療技術部門技工室

1965年にBrånemark教授が世界で初めてチタン製インプラントを開発、臨床応用してから、早や60年が経過しようとしている。徳島大学病院においても、1990年代初頭よりインプラント治療を導入し、多くのインプラント上部構造を患者に提供してきた。その間、さまざまな研究や開発が進み、より安全で患者満足度の高い治療が行われるようになってきている。

歯科技工士の立場からも、新たな材料やデジタル化の導入により、日々アップデートを行いながら歯科技工に勤んでいるが、我々が目指すインプラント上部構造のコンセプトは大きく変化していないのではないかと考える。顎口腔系に調和する、精度の高いインプラント上部構造を製作するためにはやはりチェアサイドとラボサイドをまたがる歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士間の連携が必須であり、正しい知識を持った上で、いかにコミュニケーションをとるかが成功の鍵になっているのではないだろうか。

本講演では、徳島大学病院で行なっているインプラント症例を例に挙げながら、歯科技工士の立場からインプラント上部構造製作において重要視している勘所について考えていければと思う。

また、本年度4月よりCAD/CAMインレーが保険収載された。近年の金属代の高騰に対抗する措置として期待されているが、CAD/CAM冠同様、メタルインレーほど融通が効かないところもある。今回短い時間ではあるが、CAD/CAMインレーの特性や取扱い方についても解説することで、その可能性を再考できればと思う。